

DynaScan

ユーザーマニュアル

デジタルサイネージディスプレイ

超高輝度 65 型クリーンバックディスプレイ *DW652LR5*



この度はお買い上げいただき誠に有難うございます。ご使用前に本取り扱い説明書をよくお読みになり正しくお使いください。3 ページの安全に関するご注意事項は必ずお読みください。本書は大切に保管ください。

本書で使用される図表等は参照用のみです。実際の製品とは異なる場合があります。製品の設計および仕様を予告なく変更することがございます。

HDMI™

[2025年5月現在]

目次

安全上のご注意事項.....	3
セットと付属品の確認.....	5
ディスプレイの取出し	5
ディスプレイ DW652LR5 の付属品	6
DW652LR5 の図面	7
設置について	8
設置作業.....	9
接続端子配列	10
操作説明.....	11
ディスプレイの電源を入れる/切る	11
リモコンの使用法.....	12
オンスクリーンディスプレイ (OSD)メニュー操作方法.....	14
仕様	23
入力モード.....	24
ピン配列.....	24
DSM365 について	25
DSM365 に切り替えるには.....	25
コンテンツについて	25
簡易自動再生[USB/SD Auto Playback]について	26
インテル®スマート・ディスプレイ・モジュール(Intel®SDM)対応スロットについて	27
SDMスロット挿入	27
SDMIに切り替えるには	28
トラブルシューティング.....	29

電波障害に関するご注意

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

* 本製品をラジオ・テレビ受信機から十分離して別のコンセントに接続下さい。

* この製品に接続するケーブルはシールドされたものをご使用ください。

本製品の廃棄

本製品を破棄する場合は地域や地方自治体などの規制に従って処分ください。

商標に関する情報

* HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

* DisplayPort は Video Electronics Standards Association の登録商標です。

* Android™ は Google LLC の商標です。

免責事項について

* 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用その他異常な条件下での使用によって生じた損害に対して当社は一切の責任を負いません。

* 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害に関し当社は一切の責任を負いません。

* 取付/取扱説明書の記載内容を守らないことで生じた損害に関し当社は一切の責任を負いません。

* 誤操作や静電気などのノイズにより、製品に記憶されたデータなどが、変化/消失することがあります。これらの場合に当社は一切の責任を負いません。

安全上の注意事項

～必ずお読みください。～

本項では製品を安全にお使い頂くための重要事項が記載されています。よくご理解下さい。

[記号の意味]

	本記号は禁止（してはならないこと）を示します。		本記号は指示（しなければならないこと）を示します。		本記号は注意（気を付ける必要があること）を示します。
---	-------------------------	---	---------------------------	---	----------------------------

	警告 この条項を守らないと大けがや重大な事故につながる可能性があります。
	ディスプレイは灯油などの可燃性または揮発性の液体の側に設置しないでください。
	ディスプレイは濡れた場所に設置せず、また花瓶など液体が入った物は機器の上に置かないでください。
	ディスプレイを分解すると感電の恐れがありますので絶対にお止めください。
	電源コードおよびプラグを破損させないでください。重い物の下敷きにしたり引っ張ったりねじったりしないでください。プラグやアース線部の改造はしないでください。
	温度や湿度が仕様値以上に高い、或いは低いところ、埃が多いところ、煙霧の発生する場所には設置・使用しないでください。
	濡れた手でスクリーンに触れると感電の恐れがありますのでお止めください。保守点検は販売店へお問い合わせください。
	雷が鳴りだしたら本体、電源コード、接続された機器、ケーブル等には触れないでください。
	長時間の使用後は、スクリーン裏のヒートシンクが過熱している場合があります。火傷の恐れがありますので 触らないでください。
	スクリーン上に物を落とさないでください。スクリーンに鋭利な物体で触れたり、過度に圧力を与えたりするとパネルが破損することがありますのでお止めください。
	ディスプレイはラジエーターなど、発熱する機器の側に設置しないでください。
	本機器は家庭ごみとして廃棄しないでください。地域の廃棄物規制に従って正しく処分してください。

	注意 この条項を守らないと大けがや重大な事故につながる可能性があります。
	煙や異常音、変なにおいがする場合はすぐに電源を切りプラグをはずし、取扱店までご連絡ください。
	内部に水や遺物が入った場合は電源を切りプラグをコンセントから抜いて取扱店にご連絡ください。
	電源は正しい電源電圧のコンセントを使用してください。電源コードは本体の付属品を使用してください。
	機器を落としたりキャビネットが破損した場合、ひび割れや以上な振動など構造的異常が発生した際は電源を 切りプラグをコンセントから抜いてください。
	転倒・落下防止の処置をすること。落下などによるけがを防ぐため、設置時に処置をしてください。要領は設置環境にも関連しますので、設置業者にご相談ください。

	注意 この条項を守らないと大けがや重大な事故につながる可能性があります。
	アースを接続すること。アースが接続されないで万が一漏電した場合は火災や感電のおそれがあります。また、静電気で機器にダメージを与える可能性があります。アースが接続できない場合は専門の工事業者にご相談ください。
	ディスプレイは狭い場所には設置しないで通気性の良い場所に設置してください。通気口やファン、ヒートシンクを覆わないようにしてください。
	機器を清掃する前に、電源コードを抜いてください。スクリーンを拭くときはやわらかい乾いた布を使用して ください。アルコールまたはその他の液体薬品を使用しないでください。
	太陽光が当たり温度が上がる場所ではエアコン・サーキュレーターによる換気で温度を使用条件内に維持してご使用ください。
	本体の取り扱いにご注意ください。水平ではない場所や不安定な物体、振動する物体などの上に置かないようにしてください。落下や破損の原因となります。梱包材は次回運搬時のために保存してください。
	本マニュアルで説明している使用手順に従ってもディスプレイを操作できない場合、稼働しない場合は速やかに電源を切り電源コードをはずしてください。販売店までご連絡ください。
	壁掛け設置ではコンクリートまたは表面が不燃性のものにのみマウントしてください。設置業者にご確認ください。
	製品を別の場所へ輸送する場合は必ず元のカートン・パッキングを保管しておき、再梱包してください。不適切な状態での輸送は故障の原因となりますのでご注意ください。
	本機器N0. 2000メートル以上の標高で本機器を設置・使用すると異常をきたす可能性があります。
	本機器の電源への接続は他の多数の電気機器とのたこ足配線は絶対にしないでください。ブレーカー落ち、製品のフューズ破損、故障、その他事故の原因となる可能性があります。
	電源コードは建物壁の表面を這わせないこと。又、壁の中、天井、床下等建物の構造上見えない空間を通した 設置をしないでください。
	本機器は無線周波エネルギーが発生、および放射します。本機器が発生させる無線周波エネルギーは、FCC(連邦通信委員会)が定める、ばく露制限値を大幅に下回っています。

その他のご注意事項

***液晶焼き付けに対するご注意**

スクリーン上に静止または固定画像を長時間表示し続けると、画面に焼き付けが生じる場合があります。焼き付けを防ぐため、同一の静止または固定画像を長時間表示しないようにご注意頂きコンテンツを切り替えてください。この画像の焼き付けは、メーカー保証の対象外です。

***液晶パネルの清掃お手入れについて**

- やわらかい布でスクリーンパネルの埃をふき取ります。
- パネルを拭く際には固い素材のものを使用しないでください。
- 手や鋭利な物体（ペンや爪など）でパネルを突いたり、強い圧力を与えるとパネルが破損する場合があります。
- パネルが変色する恐れがあるため、洗浄液は使用しないでください。

***キャビネットのクリーニング**

- 電源コードを抜きます。
- 柔らかい布でケースを拭きます。

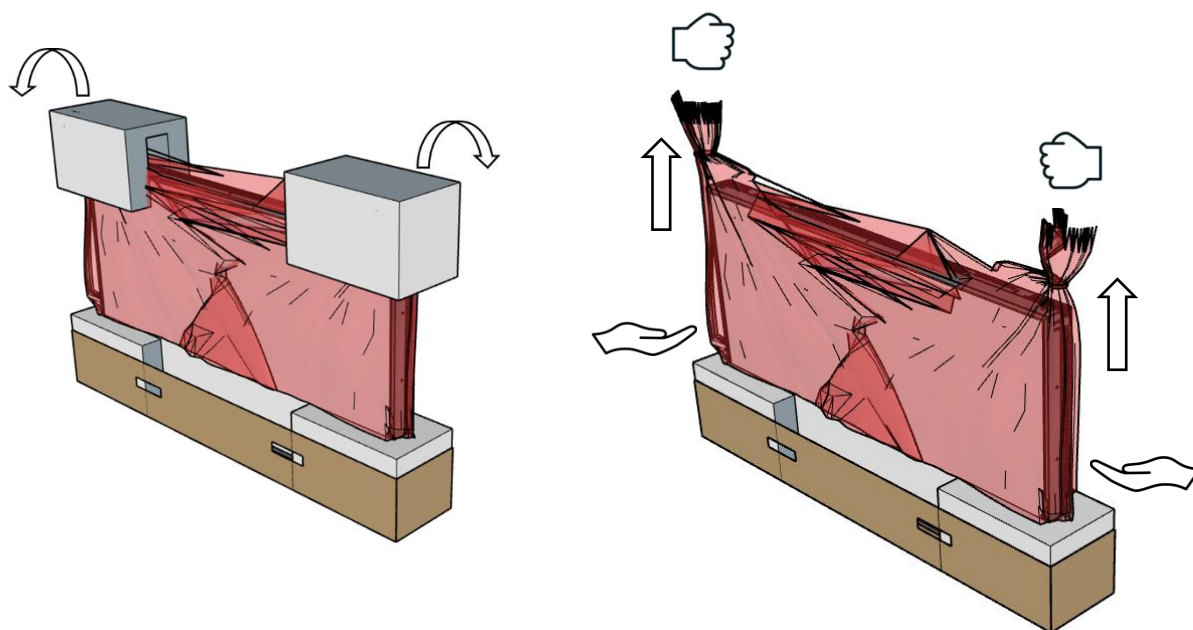
***お手入れ時の注意事項**

- ケースの塗料に異常が起こり、ひび割れや剥がれの原因となりますので次の溶剤は使用しないでください：ベンジン溶液、アルカリ溶液、アルコール系洗浄液、ガラスクリーナー、ワックス、ポリッシャー（つや出し剤）、洗剤

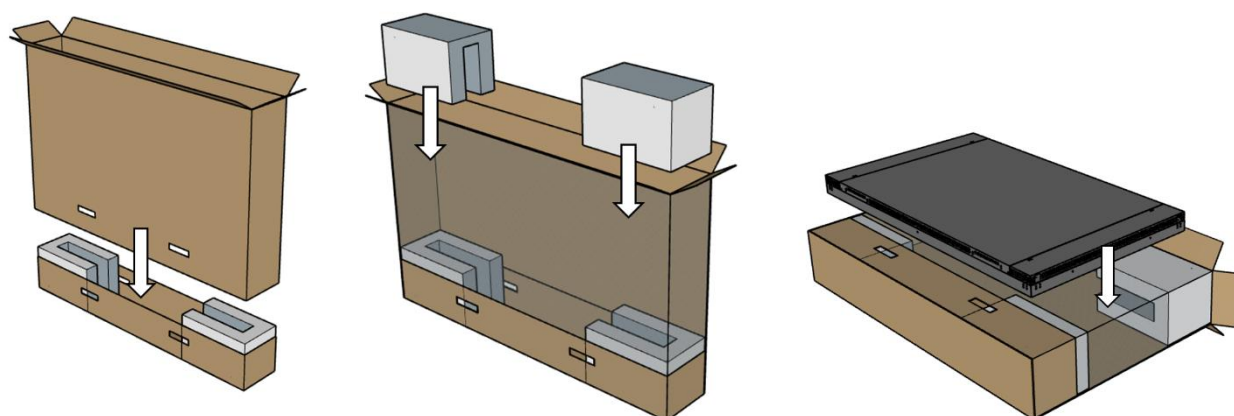
セットと付属品の確認

ディスプレイの取り出し

本ディスプレイは2名以上で作業を行うようにして下さい。本ディスプレイは背面取手が無い為、セットを保護しているビニールの上を掴みながら引き上げ、液晶面を圧迫しないように画面枠を支えて取り出して下さい。アクセサリーの入った袋も取り出します。

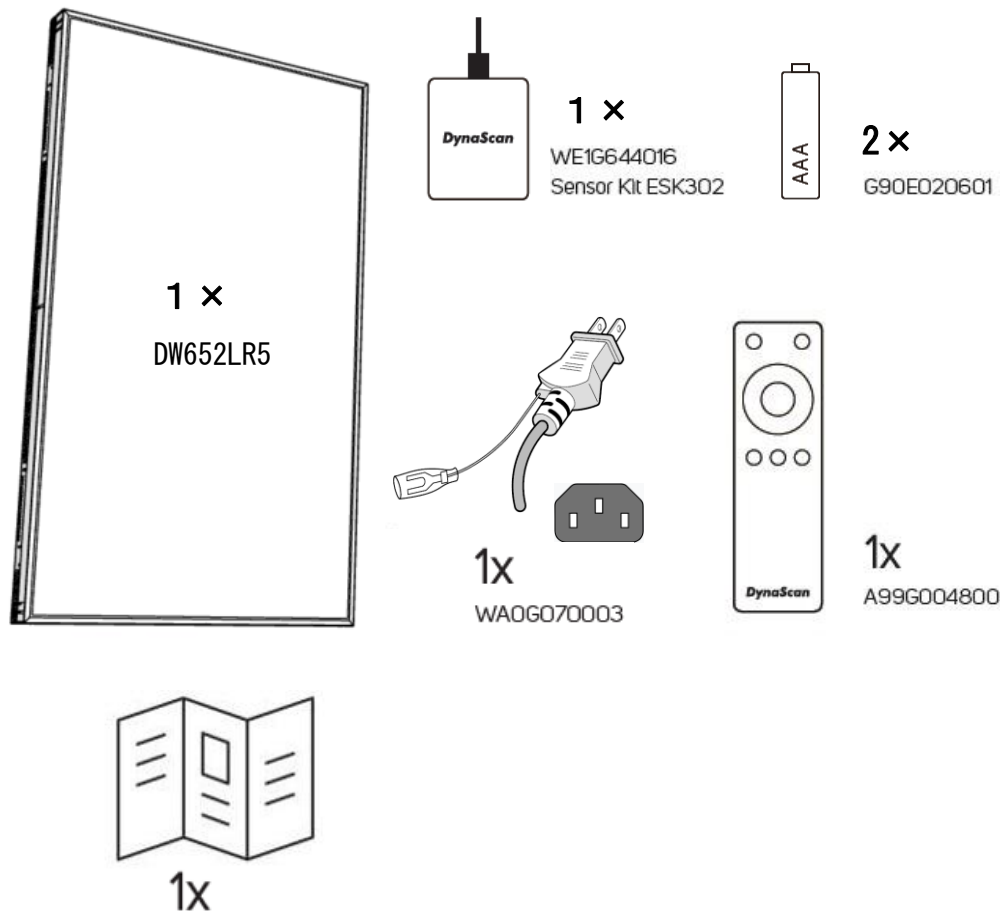


カートンにはパッキングを戻しうつ伏せにし、その上にディスプレイを丁寧に置いて設置作業に使用して下さい。（直接固いフロリングに置いたり壁に立てかけたりするようなことはしないで下さい。）



下記のアクセサリがディスプレイに付属していることを確認してください。万が一、いずれかが不足している場合は商品をご購入された代理店まで至急ご連絡ください。アクセサリの色や形状は製品によって異なる場合があります。

•

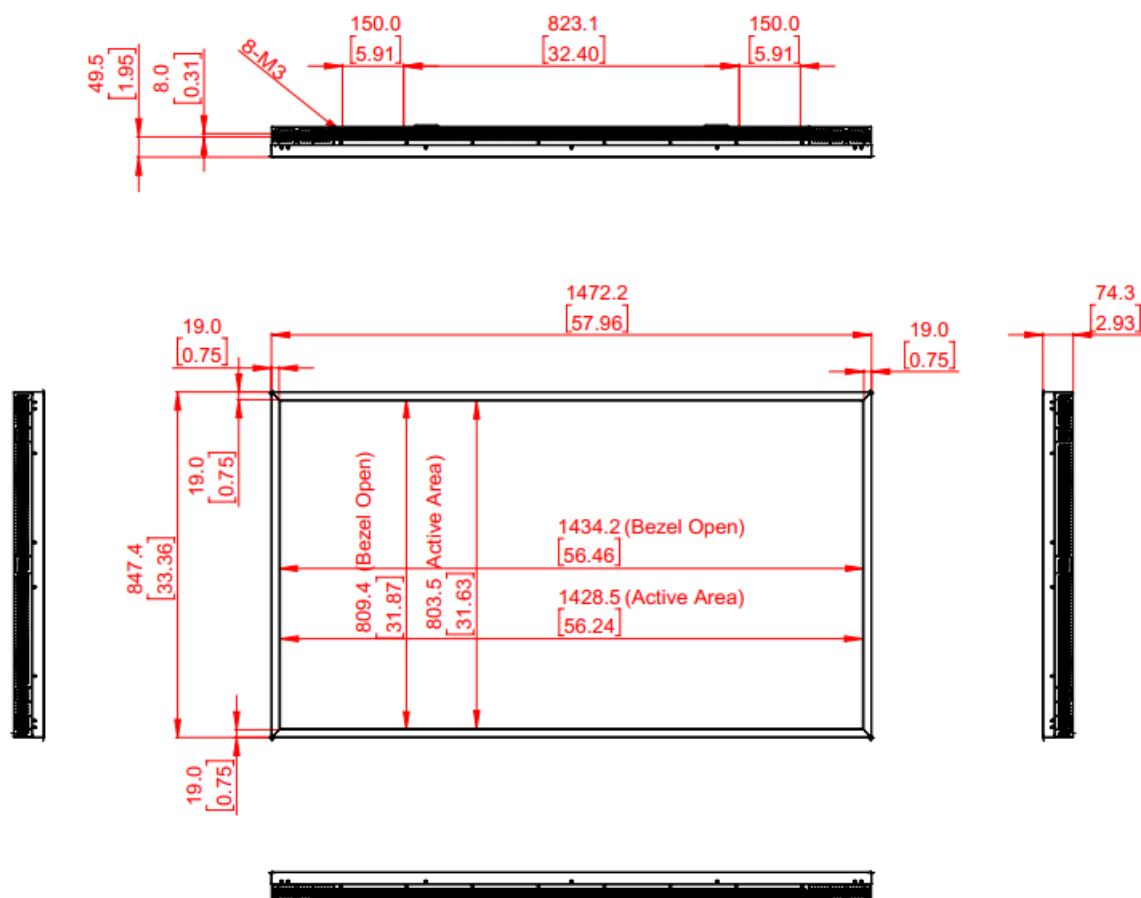


- ディスプレイ本体 x 1台
- リモコン x 1個
- 電池(1.5V/単4) x 2本
- 電源ケーブルx 1本
- クイックスタートガイド x 1部
- リモコン・照度認知 兼用センサー x 1個

* ディスプレイ側面カバー（S）はディスプレイ本体の短い辺にそれぞれ付いた状態で梱包されています。

図面

DW652LR5



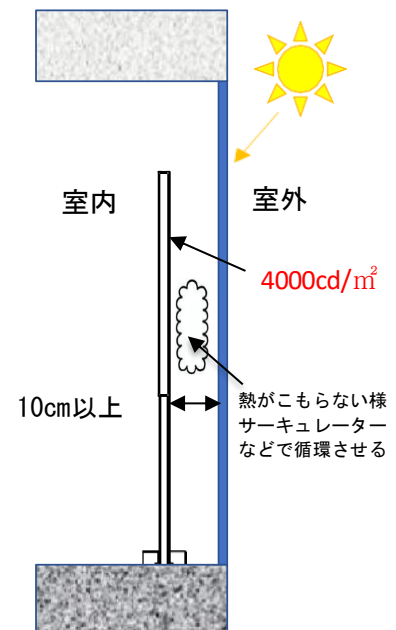
設置について (付属スタンドによる標準設置)



本機は屋内用で、設置には付属の縦設置用フロースタンドが必要です。スタンドや取付金具の説明書・指示に従い、正しく設置してください。

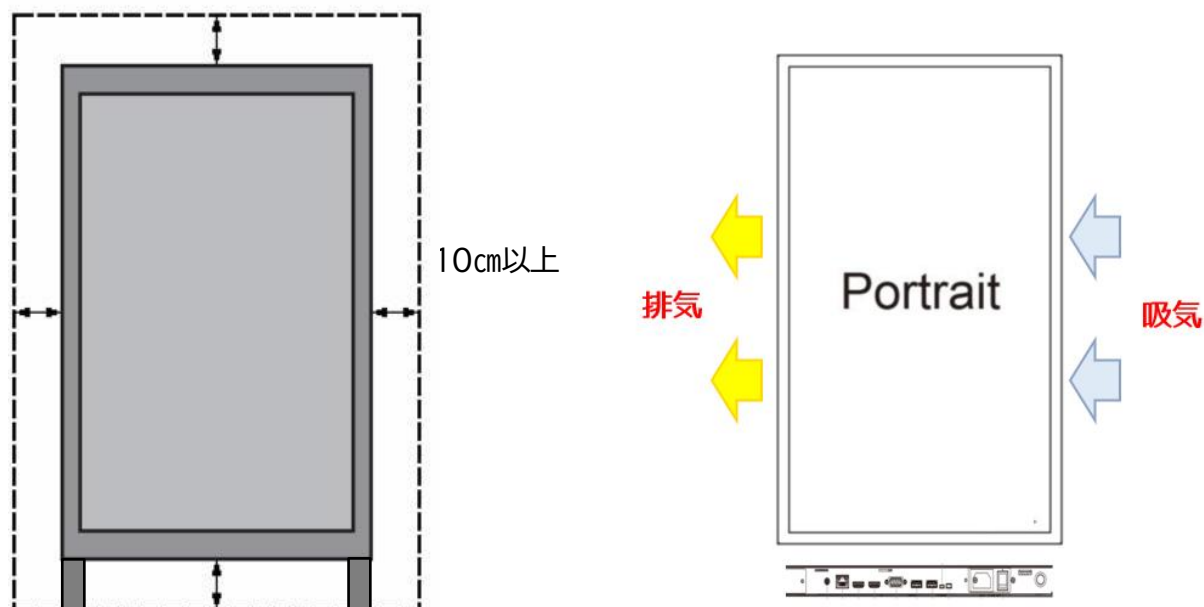
不適切な設置は怪我や機器の破損に繋がります。不適切な設置による破損は製品保証の対象外であり、Dyna Scan はかかる事態に対する一切の責任を負いません。

- ・強い振動がある場所や埃の多い場所には設置しないでください。
- ・建物の主要電気パネルの側には設置しないでください。
- ・関係者以外不特定多数の人が簡単に取り外せない様、本体はしっかり固定ください。
- ・適切な通気性を保つため、セット(またはビデオウォールの寸法)の周囲からできるだけ他の物体を離すようにしてください。
- ・床にフロースタンドをアンカー止めする設置はユーザーの責任で行って頂きます。
床の強度によってはディスプレイを設置できない場合があります。建築や機器設置専門業者によりディスプレイの重量を支えられるか等、設置場所の査定が事前に行われる必要があります。強度が不十分であれば事前に床の補強工事等を行って頂く必要があります。強度が不十分な床に設置された場合、セットの転倒などで怪我の要因となる場合があります。
不適切な設置、改造、或いは天災による破損は製品保証の対象に含まれていません。
- ・アンカー止め設置作業は特殊な技術による工事が必要になりますので販売店・機器設置専門業者へ作業をご依頼ください。
- ・取付・組み立て作業を行う際は 4 名以上で作業頂く様、お願い致します。
- ・適切に熱が放散されるよう、機器の通気口は覆わないでください。
- ・スタンドの組み立てとディスプレイの設置は必ず機器の電源を切って作業してください。
感電の危険性があります。
- ・設置場所
設置・メンテ作業が出来る十分なスペースを確保してください。
空調が効いている密閉空間ではない場所で、適正な温度に保たれている必要があります。太陽光が当たりますとディスプレイ表面の温度が非常に高くなってしまいます。ウィンドウと液晶面は必ず 10cm 以上空間を開け更に日差しが強い場合はその空間にサーキュレーターやガラス面にIR/UVカット遮熱フィルムを貼付けるなどで液晶パネルの早期劣化を防止する様に考慮をお願いします。
(仕様を超えた温度による液晶面の劣化は保証の対象になりませんので十分に留意ください。)
また床はアンカー設置が可能で十分な強度を持った材質であることを事前に確認ください。
- ・軽量のスチールフレームやインテリアデコレーションなどではなく
梁など建物の構造部に金具を固定するようにしてください。
- ・設置には木ねじや乾式壁用のアンカーを使用しないでください。



不十分な強度の天井から吊るしたり、マウントするとセットが落下して重大な事故の原因となりますので十分ご注意ください。

また、お客様 がご自分で横設置用スタンドや壁取付金具等をご準備され設置する場合、適切な強度と安全性を維持していることが必要になりますので、建築業者、設置業者と強度や安全性につき事前によくご相談頂き、セットのサイズ・重量・取付穴仕様に適した製品をご利用ください。



窓枠のような形で空気が移動できない状態で埋め込む様な設置は出来ません。
ディスプレイの周辺は必ず 10cm 以上の空間を維持し、空気の循環が保たれることが必要です。

・液晶焼付きに対する推奨操作

メニュー画面に、**Screen Protection**という焼き付け低減のための機能がありますのでご使用をお勧め致します。この他、窓際や屋外筐体内への組み込みで、液晶前面の隙間が不十分で熱が滞留しますと液晶の変色やムラが発生致します。（特に太陽光が強い環境の場合）サーキュレーターなどで十分な空気の流れを確保してください。

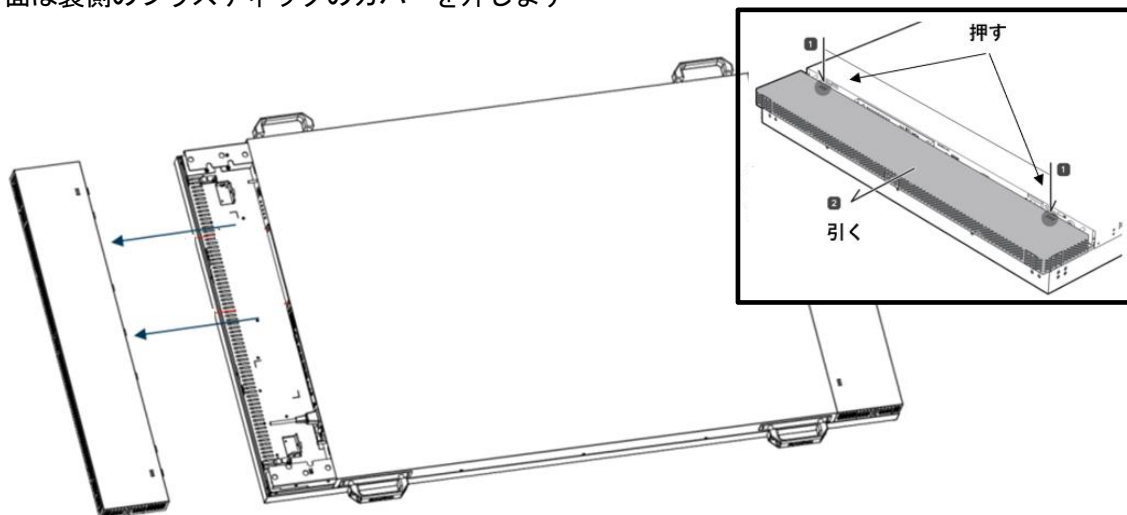
液晶画面の焼き付けや変色、ムラなどの劣化はメーカー保証の対象外ですのでご留意願います。

・メンテナンス

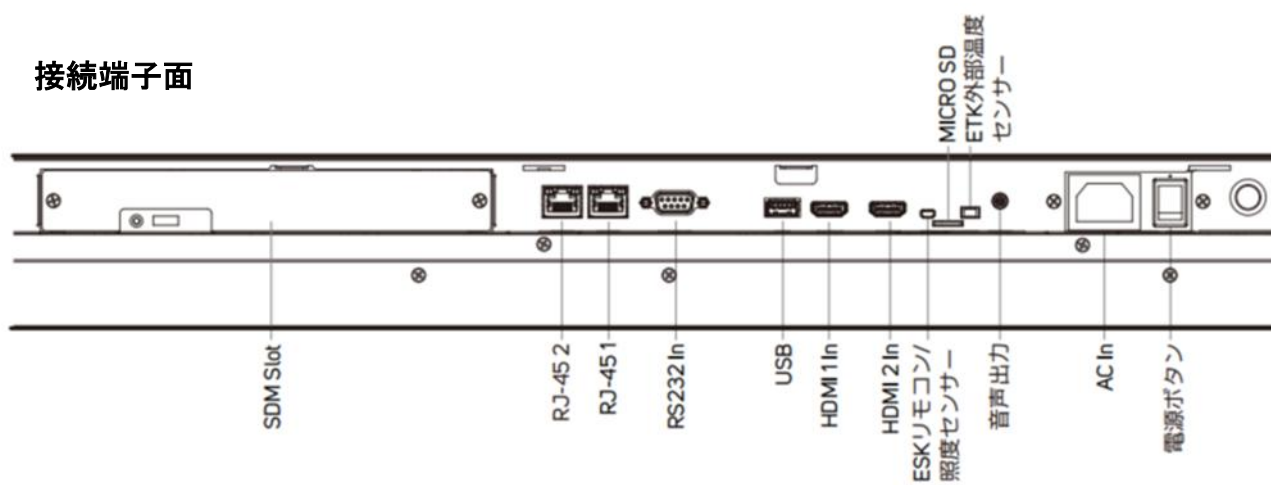
留め具に緩みや変形がないか、定期的に確認してください。問題があった場合には適切な是正措置をとってください。問題/トラブルを放置しておくと、さらに悪化する場合があります。過去にメンテナンス修理をした場所は検査回数を増やし、問題/トラブルが再発していないか確認してください。

接続端子配列

接続端子面は裏側のプラスチックのカバーを外します



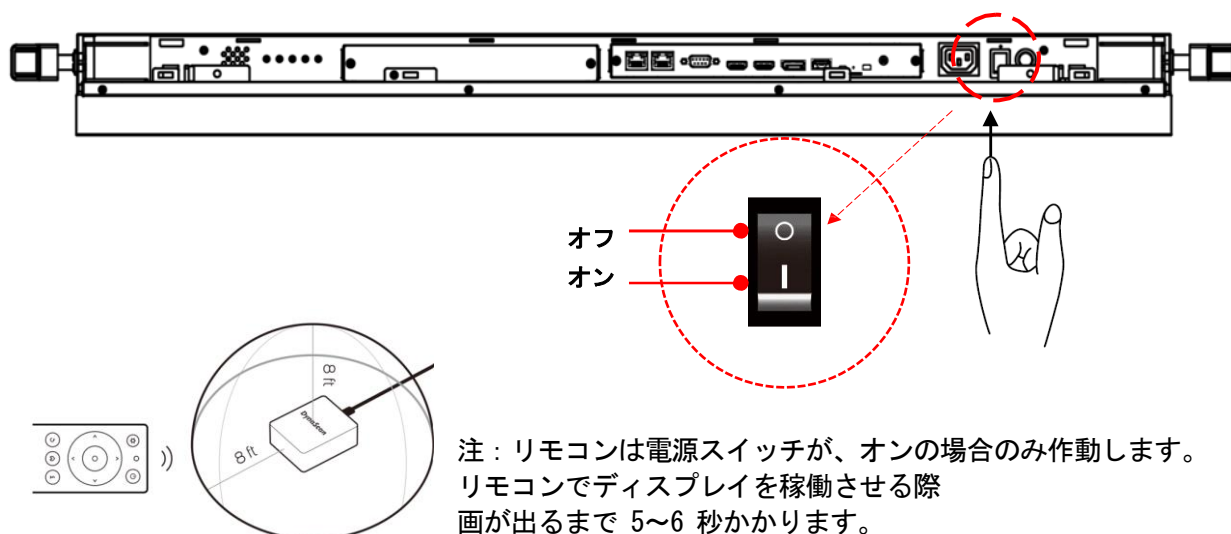
接続端子面



操作説明

ディスプレイのメイン電源を入れる/切る

ディスプレイ電源のオン/オフは、ディスプレイ背面の電源スイッチを押します（下図を参照）。



リモコンを使用する際は、接続されたリモコン/照度センサー（ESK302）に向けて使用してください。受信角度は 100 度です。リモコンの操作範囲は 2.5 メートル（8 フィート）です。前面用センサーと背面用センサーの感覚は十分空けて誤動作を回避ください。

本モデルの IR リモコン操作ボタンの構成は下図を参照してください。

環境光がリモコンの性能に影響する場合があります。蛍光灯やネオンライトの側での使用は避けてください。

リモコンの電池の挿入/交換

1. 電池収納カバーを開きます。
2. 同梱の新しい単 4 電池 2 本を挿入してください。
3. 電池収納カバーを閉じます。

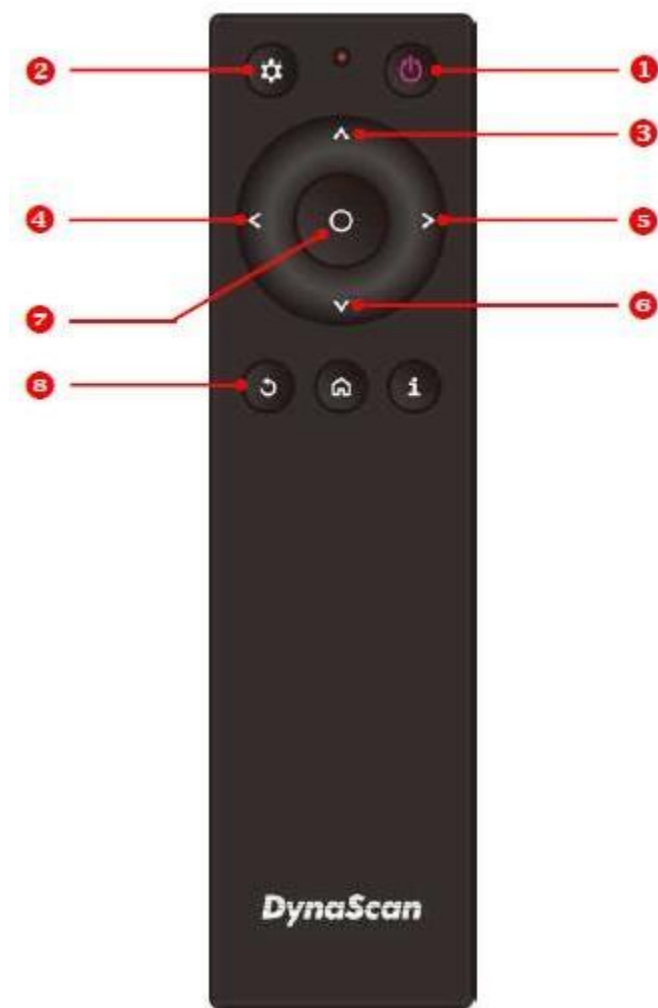


警告:

- 電池の不適切な使用は液漏れまたは爆発の危険性があります。
- 挿入する際には、電池のプラス/マイナスの向きに注意してください。
- 異なるタイプの電池、あるいは新しい電池と古い電池を同時に使用しないでください。
- 電池の寿命を縮め、液漏れを起こす危険性があります。
- 使用後の電池は収納ケース内で液漏れを起こさないよう取り外し、交換してください。
- 電池に液体が付着している場合、液漏れの可能性がありますので触らないでください。肌を傷つける恐れがあります。

注：リモコンを長期間使用しない場合は、電池を取り外しておくことを推奨します。

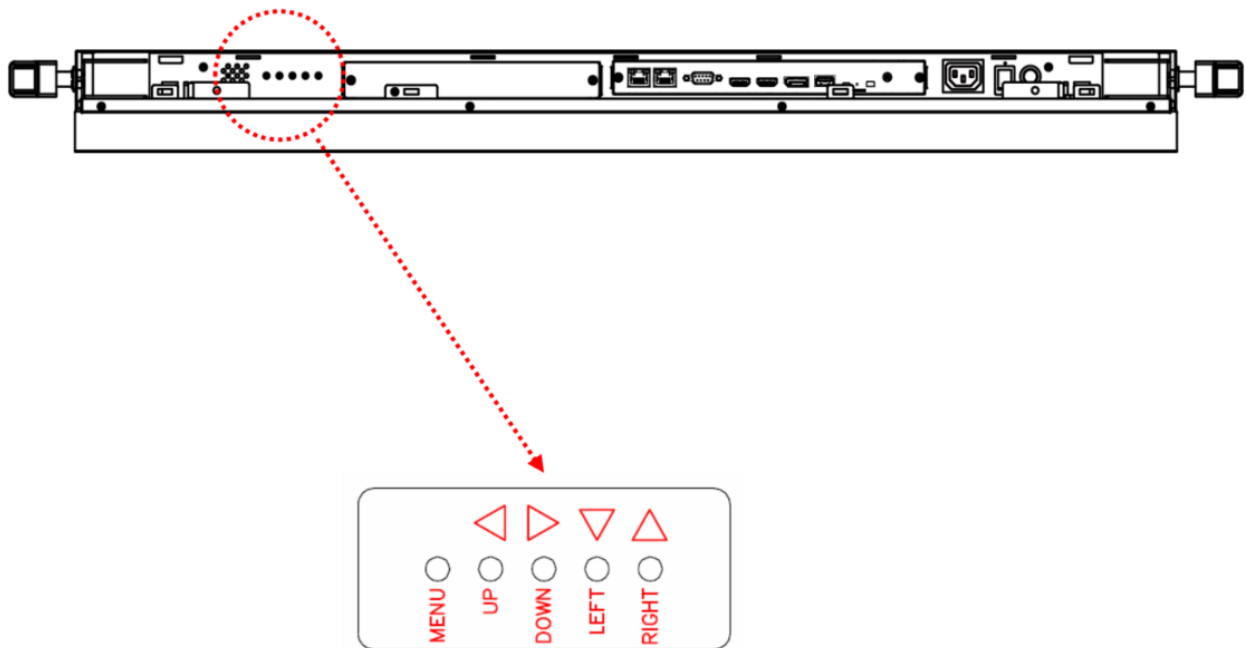
リモコン使用方法



アイテム		説明
①	POWER (電源)	電源オン/オフ
②	MENU (メニュー)	OSD (オンスクリーン表示) オン/オフ
③	UP (上)	カーソルを上に移したり、選択したアイテムの設定を変更します。
④	LEFT (左)	現在の選択を終了します。
⑤	RIGHT (右)	ハイライトしたアイテムを選択します。
⑥	DOWN (下)	カーソルを下に移したり、選択したアイテムの設定を変更します。
⑦	OK	確定 (DSM365 のみ)
⑧	戻る	前のページに移動します。 (DSM365 のみ)

* DSM365=内蔵メディアプレイヤーの名称 (後述)

リアパネルコントロールスイッチ（セット本体の操作ボタン）の使用方法



アイテム	説明
MENU（メニュー）	OSDをオン/ オフ、電源をオン/ オフします。
UP（上）	カーソルを上に移動したり、選択したアイテムの設定を変更します。
DOWN（下）	カーソルを下に移動したり、選択したアイテムの設定を変更します。
LEFT（左）	現在の選択を終了します。
RIGHT（右）	ハイライトしたアイテムを選択します。

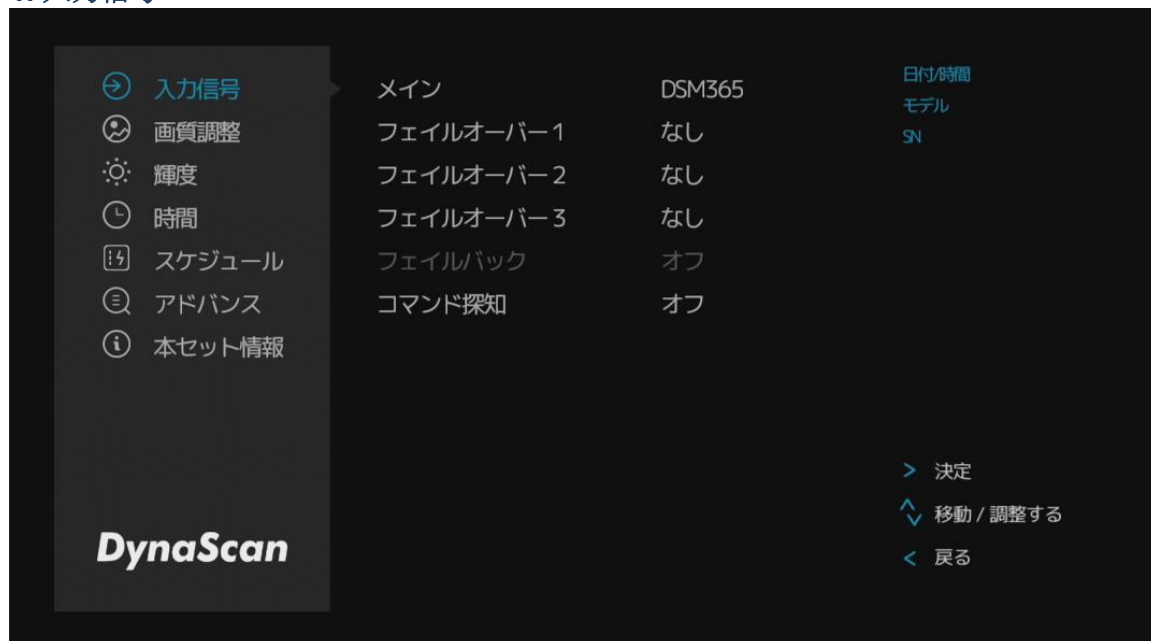
OSD(オンスクリーン表示)メニュー操作説明

リモコンの MENU（メニュー）ボタンを押して OSD を表示します。

矢印キーを使用してメニュー項目を選択し調整します。

*各設定の変更は、” LEFT(左)” （p. 12, p. 13 をご参照）を押して最後のメニューレイヤーに戻るときにのみ有効になります。

1. 入力信号



* フェイルオーバーとは優先している入力信号が何等かの理由で途絶えた場合にバックアップとして次の信号を再生する設定。左の場合は HDMI1 信号がメイン、もし信号が止まったら HDMI2→DSM365 (内蔵メディアプレイヤー) の順で入力のある信号を再生。メインの信号のみ使用してフェイルオーバーは使用しない場合、フェイルオーバー1-3 は全て オフ に設定下さい。

アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
入力信号	メイン	HDMI1	表示するメインの入力ソースを設定します。
	フェイルオーバー1	なし	フェイルオーバー1番目の入力ソースを設定します。
	フェイルオーバー2	なし	フェイルオーバー2番目の入力ソースを設定します。
	フェイルオーバー3	なし	フェイルオーバー3番目の入力ソースを設定します。
	フェイルバック	オフ	何等かの理由によりメイン入力信号ではなくフェイルオーバーの信号を再生している場合にメイン入力信号の再検知動作を行う時間間隔を設定します。
	コマンド探知	オフ	メイン入力時にRS232CでPCによる操作時のみ使用。もしメインもRS232Cコマンド信号も入力されていない場合はフェイルオーバー1へ自動的に切替ます。

2. 画質調整



アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
画質調整	色温度	ユーザー	色温度を設定します。(User, D93, D65, D55, Balanced)
	赤色レベル*	100	ユーザー選択時、赤のレベルを調整します。レンジ0 - 100
	緑色レベル*	100	ユーザー選択時、緑のレベルを調整します。レンジ0 - 100
	青色レベル*	100	ユーザー選択時、青のレベルを調整します。レンジ0 - 100
	コントラスト	50	コントラストレベルを調整します。レンジ0 - 100。
	ガンマ	ネイティブ	ガンマ値を選択します。(ネイティブ, 2.2, 2.4, sGamma)
	ブラックレベル	リミテッド	ブラックレベルを選択して画面のグレースケールを調整します。ビデオソースに対し「リミテッド(制限)」にするとHDMIと同様にRGBの16~235階調を使用します。ビデオソースに対し「RGB Full (RGBフル)」にすると0から255の全階調を使用します。「Auto(自動)」はビデオソースのブラックレベルを判別して「リミテッド」か「RGB Full」へ適合させます。

* R, G, B 各色のレベル調整は色温度を”ユーザー”に設定した場合にのみ操作可能です。

* それぞれの項目を選択すると簡単な内容説明ウィンドウが表示されます。(前頁図ご参照)

3.輝度 (明るさ-バックライトに関する設定)



アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
輝度	輝度設定	固定	輝度の自動調整のオン(On)/オフ(Off)を設定します。輝度レベルは0~100の範囲で設定します。100=最大 固定: 輝度レベルは一定の値で維持されます。 スケジュール: 輝度はタイマーにより4分割された時間帯とそれぞれ設定された輝度レベルに調整されます。 オート多機能: 輝度は照度センサーにより4分割された環境照度レベルとそれぞれ設定された輝度レベルに調整されます。 ミックス: タイマーモードで高輝度に設定された時間帯でも照度センサーが環境光が暗いと検知すれば画面を低輝度レベルへ切替ます。 オート: 輝度は照度センサーによりそれぞれ設定された高輝度レベルと低輝度レベルに切替ます。 タイマー: 輝度はタイマーによりそれぞれ設定された高輝度レベルと低輝度レベルに切替ます。
	バックライトレベル	100	バックライトのレベルを調整します。レンジ0 - 100
	ローカルディミング	UDR	画面の個々のセクションで明るさを調整してコントラストを最適化します。(UDR、モード1、モード2、オフ)

スケジュール

一日をタイマーにより4つの時間帯に分けそれぞれ輝度レベルの設定が可能。3つ目の 時間 C to D の横のスイッチに合わせリモコンの OK ボタンを押すと 3番目、4番目の時間設定はオフになり2番目の時間設定が B to A に変わります。4番目の 時間 D to A の横のスイッチを押すと3番目の時間設定が C to A に変わり、3つの時間帯での輝度設定になります。(4段階は不要の場合などに使用)

オート多機能

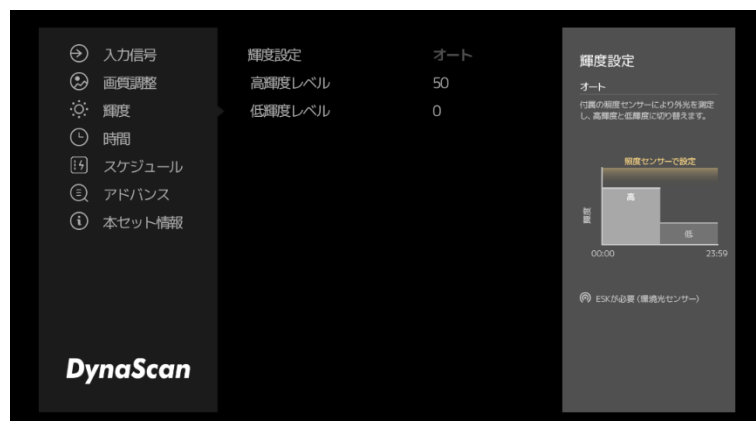
一日を照度センサーにより4つの照度レベルに分けそれぞれ輝度レベルの設定が可能。
3番目、4番目の照度レベルを設定不要な場合については上記のスケジュールと同じ要領でご使用下さい。

ミックス

一日を照度センサーにより照度を決め分けて照度を2段階で設定が可能。日の入りの時間が変わる地域などで有効です。例えばタイマーで低輝度の時間を設定していますが、その前の時間でもセンサーが低輝度へ切り替えを判断すれば自動で切り替わります。

タイマーとセンサー両方による設定

オート



一日を照度センサーにより高輝度と低輝度の2段階に切り替える設定

タイマー



一日をタイマーで高輝度と低輝度の時間帯に分けて切り替える設定

上記の各設定方法では高輝度、低輝度、4段階の場合はその他2つの輝度レベルの設定をそれぞれ行って頂くことで、光害などを避け、省エネで効果的な輝度による運用が可能です。

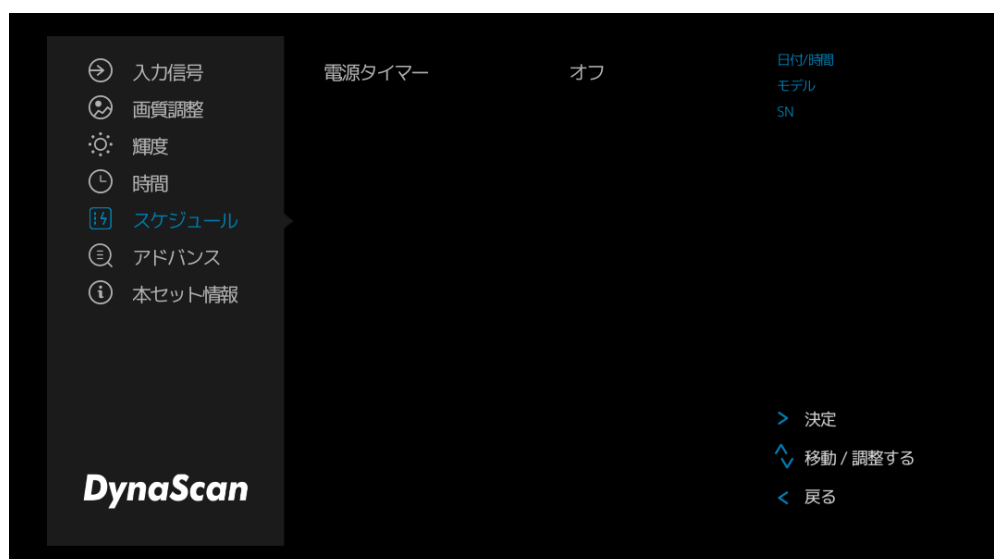
4. 時間（時間関連の設定）



アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
時間	地域	Japan	日本を選択します。
	タイムゾーン	GMT+00:00	Regionの選択で自動で設定 操作不要
	日付と時間を設定	手動	手動設定を選択します。
	現在の時間	HH:MM:SS (時/分/秒)	時計を設定します。
	現在の日付	Month. Day. Year (月. 日. 年)	月、日、年の順で設定します。
	曜日	x x x x 曜日	曜日は自動 (月曜日～日曜日) 操作不要

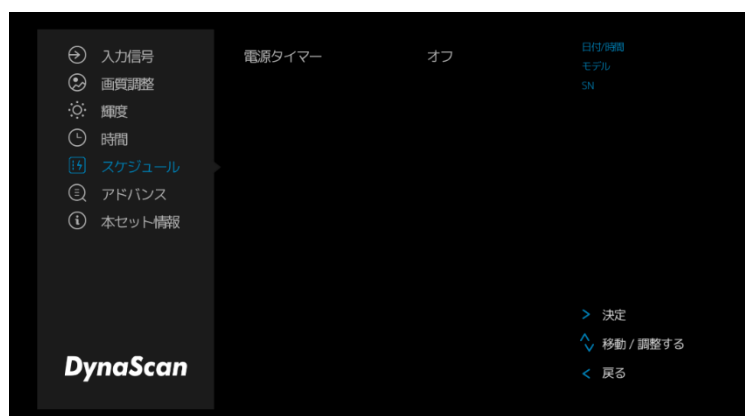
最初に地域が Japan(日本)に設定されていることを確認下さい。(工場設定) 万が一異なる場合はアルファベット順に国名が表示されますので Japan を選択下さい。タイムゾーンは設定不要です。日付と時間を設定 の項目は (手動) が選択されていることを確認下さい。(オート はモニター自体が LAN ケーブルでインターネットに接続された特殊な状態の場合にのみ使用することが可能です。) 時分と日にちを入力ください。曜日は設定不要です。(自動)

5.スケジュール（ON OFF タイマーの設定）



アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
スケジュール	電源タイマー	オフ	オフ - ウィークリー - 毎日からタイマーモードを選択して稼働時間 オンと消灯時間 オフを設定します。

オフ（ON/OFF タイマーは使用しない運用設定です。—工場設定）



24H つけっぱなし、或いはリモコンや本体の電源ボタンの入り切りで点灯消灯される場合、又は、施設のブレーカーなどで一斉に電源を落としたり入れたりする運用などの場合に使用します。

ウィークリー（一週間の曜日ごとに ON/OFF タイマーを設定可能）



曜日により表示時間を変えたい場合に本項目を設定します。

曜日の左側のスイッチはリモコンで選択して OK ボタンを押すと On/Off が切り替わり、Off の際は”電源 Off All day-終日電源オフ”と表示されその曜日は点灯しません。

毎日（毎日の ON/OFF タイマーの設定）



毎日の ON と OFF の時間を共通で設定します。いつでも同じ時間に稼働し消灯します。

6. アドバンス（その他の設定）



アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
アドバンス	表示モード	オート	メニューの向きを変更します。メニューは横向きあるいは、縦向きモードで表示できます。
	スクリーン焼き付の保護	オフ	画像の焼き付け保護をオン/オフにします。画像焼き付け保護の間隔を設定します。レンジ 0 - 100分 焼き付け保護の為にスクロールする黒いバーが画面に表示されます。これは故障ではありません。
	IRコントロール	オン	メニュー操作のリモコン機能を有効化/無効化します。 注：無効化した後に再度リモコン機能を有効にしたい場合、ディスプレイ本体のコントロールボタンを操作して行います。(p. 16ご参照) 本設定はいたずら防止等の為に通常は使用せず“ON”の設定のままにして下さい。
	電源復旧時の動作	パワーオン	ACバックステータス機能の状態を選択します。 ・電源オン：停電後、電源が回復時に起動します。 ・スタンバイ：停電後に電源が回復の際ディスプレイはスタンバイ状態を維持します。 ・メモリ：停電後電源が回復するとディスプレイは稼働していた時の最後の状態に戻ります。
	オーディオ出力音量	50	音量出力を設定します。レンジ 100 - 0
	言語	日本語	各国のOSD表示を選択します
	入力情報	オン	
	RS232 CMD 対応	オフ	旧機種とのRS232コマンドの互換性を保ちます。(旧機種と合わせてRS232C操作をされる場合にのみ使用) モデル名等詳細は販売店へお問い合わせください。
	リブート設定	オフ	本体の自動再起動を設定します。OFF(再起動しない) 或いは1:00~24:00まで再起動させる時間の設定をします。
	OSDパスワード	オフ	OSDを使用するためのパスワードの設定ができます。(通常使用しません。設定後OSDには“Change OSD Password”の表示が追加となります。設定時は4桁の数字を忘れないようにメモ下さい。)
	設定の保存と復元		OSD設定のインポートまたはエクスポートが可能です。セットを同じ設定で多数ご利用になる際に最初に設定されたセットにUSBメモリーを装着し“Export”を選びますとデータがUSBメモリーにコピーされます。同じ設定をしたい別のセットにそのUSBメモリーを装着し、同じ項目を選択し“Import”を選びますと同一の設定データが一瞬でコピーされます。
	出荷時の状態に戻す		すべての設定をデフォルト設定にリセットします。注：現在時刻、電源オン時間、電源オフ時間はリセットされず現状を維持します。

7.本セットの情報



アイテム1	アイテム2	デフォルト	説明
セット情報	解像度	XXXX X XXXX	入力信号の解像度を表示します。
	MCB バージョン	XXXXXX	メイン基板のバージョンを示します。
	ファームウェア	XXXXXX	ファームウェアバージョンを示します。
	OS バージョン	XXXXXX	OSのバージョンを示します。
	ファンの状態	Good	本体内ファン動作状態を示します。
	筐体内温度	XX°C	筐体内温度を示します。
	周辺温度センサー（別売り温度センサー装着時の測定温度）	XX°C	LCDの外部（環境）温度をモニタリング。別売り温度センサー（ETK302）の取付が必要です。
	湿度	XX%	筐体内湿度を示します。

* モニターのモデル名、製造シリアル番号、は各画面で常に右上に表示されています。

万が一不具合が発生した場合など、この情報及び上記 本セット情報の MCB, FW, OS バージョン の情報を確認いただけますと販売店の対応がスムーズに行えます。

仕様

機種		DW652LR5
パネル	パネルサイズ	64.53型
	解像度	3840×2160
	輝度	4000cd/m ²
	コントラスト比	1200:1
	応答速度	9ms
	視野角	178° /178°
	バックライト寿命	100,000時間
電源	電源	内蔵
	定格電圧	100-240V 50/60Hz
	消費電力	230W (Max 490W)
機構	ベゼル幅(T/B/L/R)	19.0 mm均一
	キャビネット色	ブラック
	筐体サイズ	1472.2×847.4×74.3 mm
	セット重量	39kg
	設置方向	縦/横
機能	表示言語	日本語
入出力端子	HDMI2.1(HDCP2.3)	IN × 2
	RS232C	IN × 1
	Audio	OUT × 1
	USB	IN × 1(USB3.0)
	RJ-45	IN × 2
環境条件	動作温度	0℃～45℃
	保存温度	－20℃～60℃
	湿度	10%～80%（結露無きこと）

* 設計と仕様は、予告なく変更されることがございます。

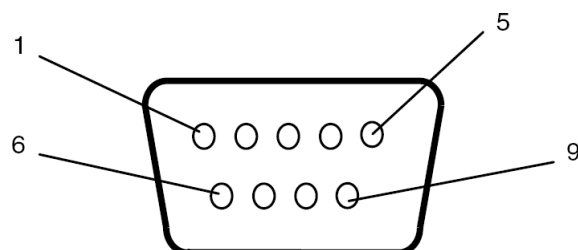
入力モード

アクティブ解像度		リフレッシュレート	ピクセル比率	縦横比
水平ピクセル	垂直ピクセル			
640	480	60 Hz	25.175 MHz	4:3
720	480	59.94 Hz	27 MHz	4:3
800	600	60 Hz	40 MHz	4:3
1024	768	60 Hz	65 MHz	4:3
1280	720	60 Hz	74.25 MHz	16:9
1280	768	60 Hz	79.5 MHz	5:3
1360	768	60 Hz	85.5 MHz	16:9
1920	1080	60 Hz	148.5 MHz	16:9

* 接続するコンピューターによっては、上記対応信号であっても正しく表示できない場合があります。

ピン配列

RS-232 入力



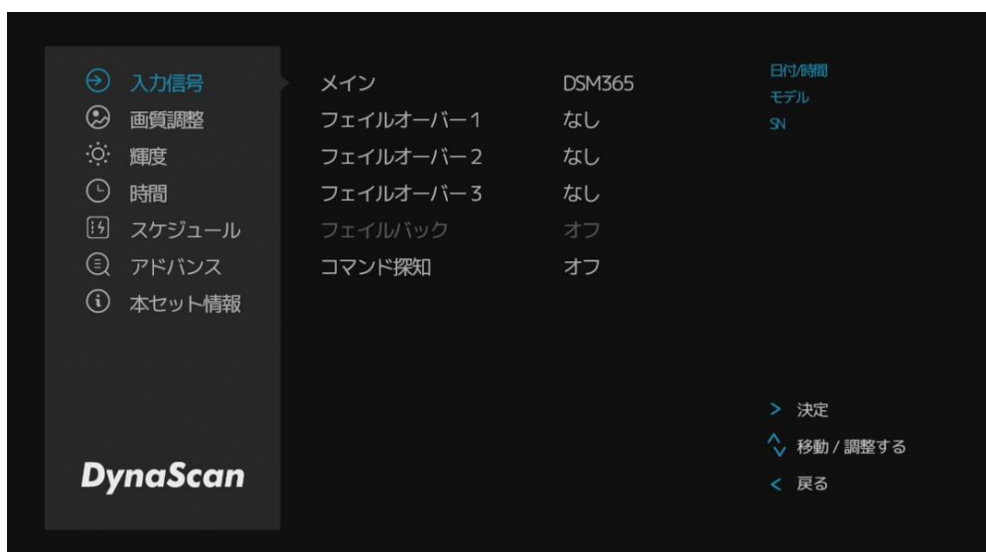
PIN No.	名称
01	7と8に接続
02	TXD
03	RXD
04	6に接続
05	GND アース
06	4に接続
07	1と8に接続
08	1と7に接続
09	非接続

DSM365 について

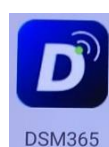
DSM365 は、USB メモリーにより、静止画や動画のコンテンツを簡単に再生出来るディスプレイ内蔵の Android ベースメディアプレイヤーです。

1. DSM365 に切り替えるには

- ・ リモコン(或いは本体リアパネル)の MENU (メニュー) ボタンを押して OSD を表示します。
- ・ 矢印キーを使用して入力ソースを選択し、入力信号→ メイン→ DSM365 と選択します



リモコンの  ホームボタンを押します。アンドロイドの画面になりますので、DSM365 を選択して決定ボタンを押して下さい。右下の画面になりましたら準備完了です。



本説明は初めてのご使用時のもので、一旦 USB にコンテンツを入れて挿入すれば、次回からは DSM365 を選択すると自動的に再生を開始いたします。

2. コンテンツについて



再生対応コーデック
静止画 : JPG, PNG
動画 : MP4



縦設置 (Portrait) の場合は、画像の左側が上になるように作成してください。

簡単自動再生の場合、ファイル名順に再生されますのでファイルの頭部分に再生する順番に 01、02 のように番号を振れば、その順番で再生されます。

例) 001_xxxxxx.jpg 002_yyyyyy.mp4

3. 簡単再生について

前述のファイルの頭部分に再生する順番に 01、02 のように番号を付けた名前で USB メモリーにセーブされたコンテンツの自動再生の設定方法です。一度設定すれば、新しいコンテンツに切り替える際も本設定は維持されていますので、簡単にコンテンツの更新・再生を行うことができます

①



作成されたコンテンツの記録された USBメモリーを差し込んでください。

②



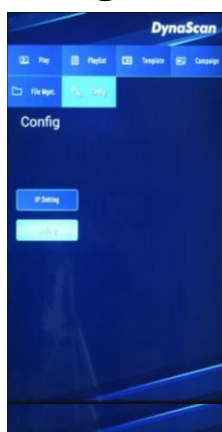
リモコンの○(決定) ボタンを押すと③の画面が表示されます。

③



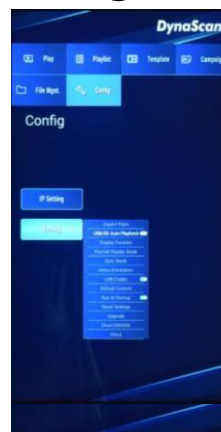
リモコンの上下左右キーを押して” Config”に合わせ(ハイライトになります) 決定を押してください。

④



次に” Setting”を選択し 決定ボタンを押してください。

⑤



“USB Auto Playback”を Onにしてください。

⑥



次に” Display Duration”を選択し、再生される静止画像の秒数を決めます。

⑦



5秒、10秒、30秒から選びOKを押します。(＊動画コンテンツはその長さでのみ再生)

⑧

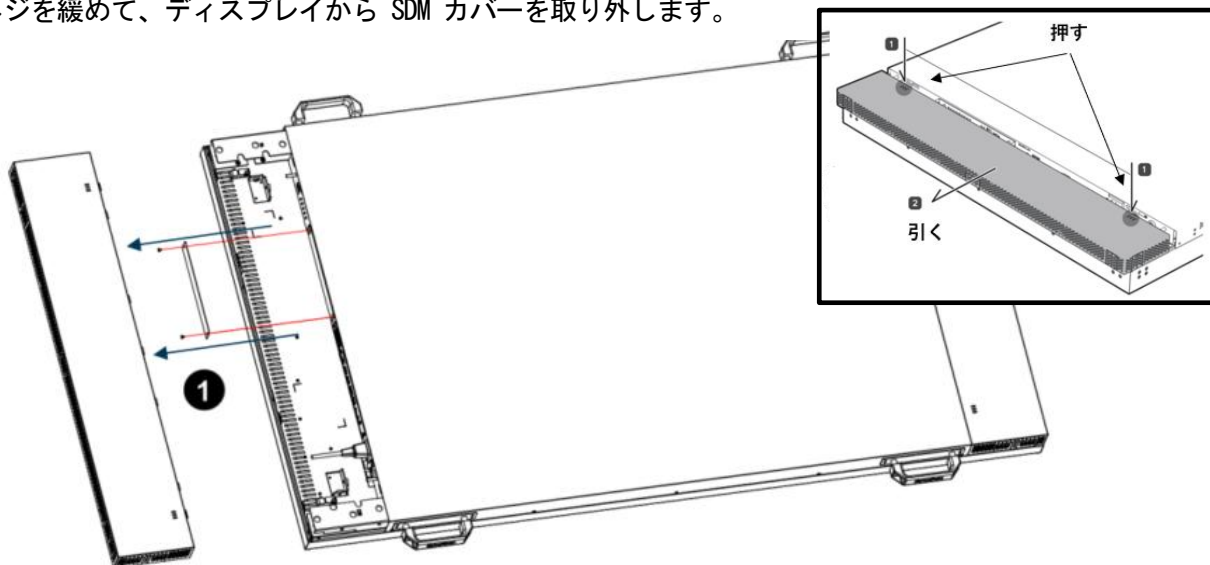


リモコンの○ボタンを数回押すと自動的に再生が始まります。

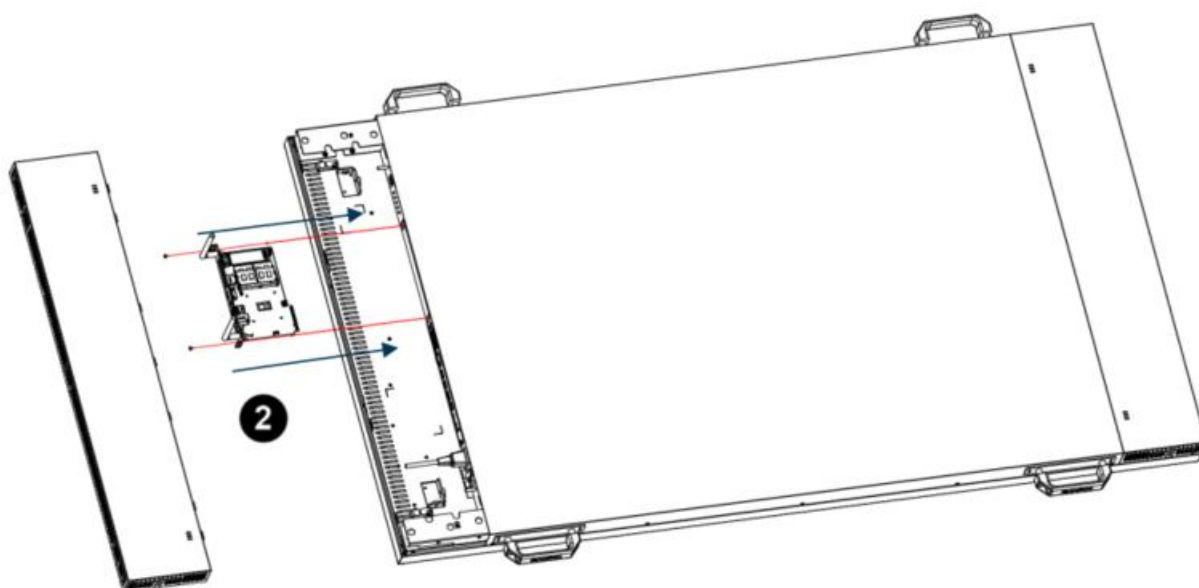
インテル®スマート・ディスプレイ・モジュール(Intel®SDM)対応スロットについて

SDM(INTEL® スマート ディスプレイ モジュール) は、スロットに挿入して使用するため設置レイアウトに影響しません。

1. ネジを緩めて、ディスプレイから SDM カバーを取り外します。

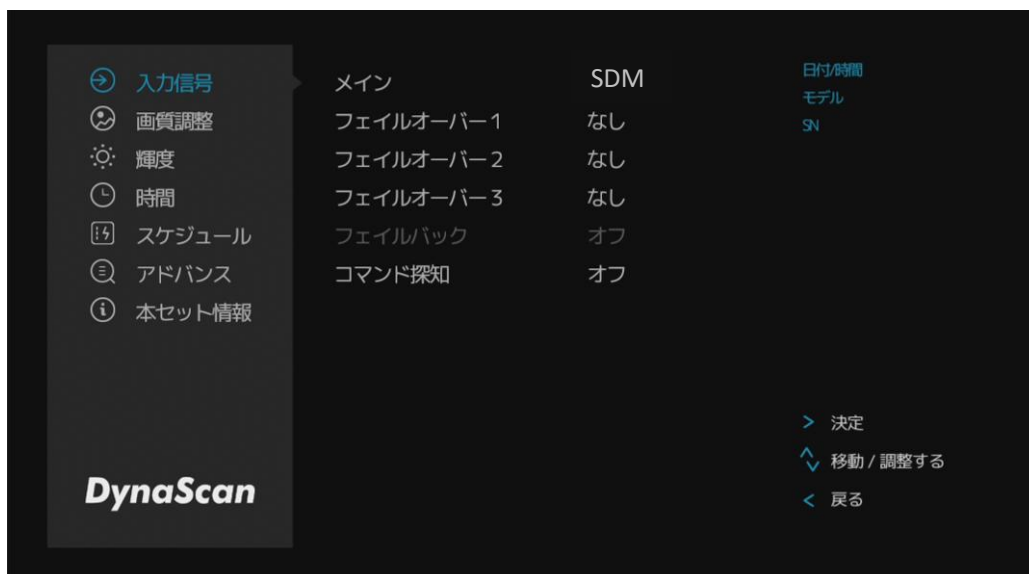


2. SDM モジュールをディスプレイに挿入し、ネジを締めます。
デバイスの破損を防ぐために、SDM が適切に取り付けられていることを確認してください。



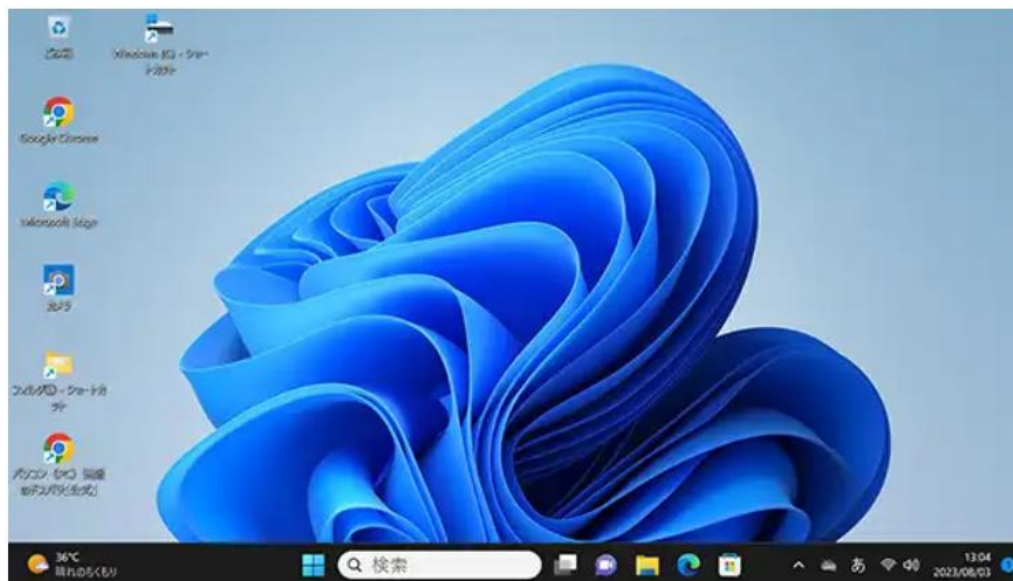
1. SDM に切り替えるには

- 背面パネルのコントロールまたはリモコンの MENU ボタンを押して、OSD を表示します。
- 矢印キーを使用して入力ソースを選択し、入力信号 → メイン → SDM と選択します。



2. 操作について

背面のSDMスロットのUSB端子にBluetooth対応キーボードのレシーバーを接続し画面操作を行います。



インテルの商標およびロゴは、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

トラブルシューティング

問題点	推奨される解決策
画像が表示されない。	●ケーブルがしっかりと挿入されているか確認してください。 ●メインスイッチがオンの位置になっているか確認してください。また電源コードがしっかりと挿入されているか確認してください。 ●画像ソースの解像度形式をサポートしているか確認してください（23 ページの「入力モード」項目参照）。 ●ケーブルが破損または過度に曲げられていないか確認してください。
メインスイッチをオンにしても何も作動しない。	●電源コードをコンセントから抜き、再度差し込んで数秒待ってからサイネージをリセットしてください。 注：電源コードを抜いても設定は変更されません。
画像が安定しない。	●ケーブルがしっかりと挿入されているか確認してください。
リモコンが機能しない。	●メニュー内のAdvance→IR ControlはON(オン)になっていますか。 ●リモコンに電池が入っているか確認してください。 ●電池が新しいか、プラス/マイナスの向きは正しいか、なども確認してください。 ●リモコンを操作範囲内で操作しているか確認してください。 ●明るい光がリモコンに干渉している場合があります。リモコンは特定の蛍光灯やネオンライトの近くでの使用は避けてください。
自動オン/オフが機能しない、あるいは正しく機能しない。	●メニュー内の TIMER(タイマー) 設定が OFF (オフ) になっていないか確認してください。 ●「Power On Time (電源オン時間)」と「Power Off Time (電源オフ時間)」が正しく設定されているか確認してください。
RS-232 を介してディスプレイを遠隔コントロールできない。	●RS-232 ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

本モデルの問題が解決されない場合は、取扱店または Dyna Scan まで、直接お問い合わせください。

www.dynascandisplay.co.jp

www.dynascanusa.com

ダイナスキャン・テクノロジー・ジャパン株式会社
〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町 888 番地